

【アメリカ】 駐韓大使指名公聴会

海外立法情報課 新田 紀子

* 2014 年 6 月 17 日、上院外交委員会は、駐韓大使の指名公聴会を開催した。日本に関する部分を紹介する。2014 年 9 月 18 日、上院は本件指名を承認した。

1 日韓関係

(1) カーディン外交委員会東アジア・太平洋小委員長

上院外交委員長の代わりに司会を務めたベンジャミン・カーディン（Benjamin Cardin）上院外交委員会東アジア・太平洋小委員長（メリーランド州、民主党）は、日韓両国が、地域の隣国であり、米国の緊密な同盟国でありながら、難しい関係になっていると述べ、両国関係改善の進め方についての見解を尋ねた。2014 年 5 月に駐韓大使に指名されたマーク・リパート（Mark Lippert）国防長官首席補佐官兼特別顧問（当時）は、良好な日韓関係は、米国の安全保障上の利益であり、指名が承認された場合には、「非常に困難で痛みを伴う」歴史問題に対処するための両国間のより良い対話を促すべく、キャロライン・ケネディ（Caroline Kennedy）駐日大使や国務省の関係者と話し合っている旨答えた。また、自分がアジア・太平洋安全保障問題担当国防次官補であった時には、日米韓 3 国（trilateral）の協力を会議の議題に加えるよう努め、シンガポールでの IISS（英国国際戦略研究所）アジア安全保障会議（シャングリラ・ダイアログ）では 2 年続けて（2013 年 6 月、2014 年 5 月）日米韓防衛相会談を行った。さらにリパート補佐官は、2014 年 3 月にハーグで開催された核セキュリティ・サミットでは、オバマ大統領が、日米韓 3 か国首脳による会談を行ったことに言及し、最終的には、日韓両国は、2 人の有能な外相を有し、この問題で前進できる偉大な国々であり、米国はその対話を促す重要な役割を果たすことができると答えた。

カーディン小委員長は、開かれた率直な議論を行うことが重要であると述べるとともに、この問題は、1 国の行動が、もう一方の国によってかなり強く解釈されがちだと指摘した。さらに、この問題を解決し、日韓関係を改善するためにリパート次期大使が何をなしうるにせよ、両国が「少なくとも歩み寄る（go at least halfway）」ことの必要性を明確にすることが非常に重要と思うと述べた。

(2) ルビオ外交委員会東アジア・太平洋小委員会共和党筆頭委員

後から参加したマルコ・ルビオ（Marco Rubio）上院外交委員会東アジア・太平洋小委員会共和党筆頭委員（フロリダ州）は、安倍政権と韓国との間の摩擦とその関連で生じている問題が、中国のこの地域における正当でない [領有権の] 主張に関する懸念よりも、おそらくより重大な問題とさえ言えるのであり、我々の 2014 年 1 月の両国への訪問の主要な課題の 1 つであったと述べ、[日韓] 両国ともアジア太平洋地域で最も重要な同盟関係にある国であるが故に米国にとり非常に厄介な問題である旨指摘した。

その上で、米国の立場や日韓関係の最新状況を尋ねたのに対し、リポート次期大使は、ルビオ議員が外交誌にアジアについて執筆した論説（注1）を読んだとしつつ、この問題は引き続き厳しい状況が続いているが、特に日米韓3国関係へ米国の関与については一定の進展があるとして、首脳、防衛大臣、防衛当局者間で行われた3国間対話（(1)で紹介）について重ねて説明し、さらなる努力が必要であると述べた。

2 集団的自衛権

ルビオ議員は、集団的自衛権の憲法の解釈変更に関する日本での議論について、現在、米国の船や人が攻撃された場合、憲法の条項を厳格に解釈すれば、非常に能力のある日本の防衛部隊は、理論上我々の防衛に駆けつけることができないと述べた上で、安倍政権の目標は、この条項の適用を少し自由にする事なのか、韓国はどのように見ているのか、日本側の一層の能力向上の結果、日韓間の防衛パートナーシップが可能になるような感触があるのかと尋ねた。リポート次期大使は、ルビオ議員の発言は、日米防衛協力のための指針（ガイドライン）の改定作業と同じく、集団的自衛権の解釈変更の良い面を示したが、国防省など米国政府は、この問題で、[日本には]韓国政府との間で透明性と協議を促してきたと述べるとともに、個人的見解であるが、集団的自衛権は扱いの難しい問題であると考えている旨付言した。また、シャングリラ・ダイアログでの日米韓防衛相会談の焦点の1つは、この問題での日韓間の意見交換を促すことであり、それに先立つワシントンでの日米韓防衛実務者協議は、情報交換を行い、わかりやすく説明し、疑問を明らかにするために行ったと説明した。

3 北朝鮮

カーディン小委員長が、核の能力のみならず人権無視や壊滅的な経済の故に、地域の安定への脅威となっている北朝鮮にどのように取り組むべきかと尋ねたのに対し、リポート次期大使は、①北朝鮮とその体制を孤立させるための国際的なコンセンサスを築き続けること、②北朝鮮を牽制し、米国がその行動を監視しているという強い警告を送るために、軍事演習の実施とともに、圧力や多国間及び単独の制裁を継続すること、③強い国防力と抑止の構築の3点を挙げ、③については、[具体的には]米国及び同盟国の双方の観点から、北朝鮮の脅威に対して1歩先んじるため、アラスカにおける地上配備型迎撃ミサイルを増加し、米国のミサイル防衛を強化するために、TPY-2レーダーの日本への配備を増加すること（注2）であり、また、2017年までに2隻の新しい弾道ミサイル防衛巡洋艦の配備、終末期高高度地域防衛（THAAD）システムのグアムへの配備を意味すると述べた。

4 その他

カーディン小委員長は、リポート次期大使が言及した、日韓の協議やシャングリラ・ダイアログでの日米韓の協議も大事であるが、朴槿恵（パク・クネ）大統領の提言であり、自分も同意する欧州安全保障協力機構（OSCE）のような対話メカニズムを利

用することも日韓間の対話メカニズムを強化する方法として存在する（注3）と、公聴会の最後に発言した。

注（インターネット情報は2014年9月18日現在である。[]は筆者による補足。）

・ 上院外交委員会公聴会の模様 <<http://www.foreign.senate.gov/hearings/nominations-ambassador-to-peoples-democratic-republic-of-algeria-and-asst-admin-usaid>>

(1) Marco Rubio, “I Come Bearing ... Reassurance,” *Foreign Policy*, April 24, 2014 と思われる。その中に、「歴史問題が協力を損なわないようにさせるべし」との項目があり、日韓関係に言及している。

<<http://www.rubio.senate.gov/public/index.cfm/press-releases?ID=1a98f0ea-ce7c-4bfe-b724-b0844f06b1f9>>

(2) Xバンド・レーダーとも呼ばれる。<http://www.mod.go.jp/rdb/kinchu/tpy-2/tpy-2_about.pdf> 青森県つがる市に加え、京都府京丹後市に配備されることになった。<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000016128.pdf>>

(3) カーディン委員長はこれまでも同様発言を行っている。<http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8347722_po_02570213.pdf?contentNo=1>